

常任委員会視察報告書

委員会名	教育福祉常任委員会 (納所委員長、後藤副委員長、藤本委員、前川委員、井上委員、吉岡委員)
視察先 調査事項 など	<p>1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について (大阪府守口市) 10月16日(月)14時00分～16時00分 説明者：守口市立図書館</p> <p>2 いじめ防止の取組について (大阪府吹田市) 10月17日(火)10時00分～12時00分 説明者：吹田市学校教育センター、学校教育室</p>
視察先 概況	<p>1 大阪府守口市及び守口市立図書館の概況 守口市は人口141,255人(令和5年10月1日現在)、面積は12.71km²で、大阪平野のほぼ中央部、淀川の左岸に位置し、南と西は大阪市に、東は門真市に、北は寝屋川市に接した平坦地です。古くは農地が大部分を占め集落が点在していましたが、大阪市に隣接する西部地域から市街地が発展し、特に高度成長期には一挙に市街地が拡がりました。</p> <p>当委員会では、「既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について」をテーマに、閉館した生涯学習情報センターを、外観はそのまま、内部に大規模な改修を加え、地域の新たなランドマークとしてリノベーションを行った、図書館と生涯学習施設を併せ持つ、複合型公共施設である守口市立図書館の視察を行いました。</p> <p>2 大阪府吹田市の概況 吹田市は人口382,491人(令和5年9月30日現在)、面積は36.09km²で、大阪府の北部に位置し、南は大阪市、西は豊中市、北は箕面市、東は茨木市及び摂津市に接しています。多くの鉄道駅がある交通アクセスの良さと、万博記念公園などの緑豊かな環境が特徴です。</p> <p>当委員会では、いじめのない学校づくりの実現を目標に、学校生活で子供たちが友達や先生、地域住民と良い関係を築き、楽しみや喜びを感じながら過ごせる環境を整えるための取組である、「すいたGRE・EN(グリーン)スクールプロジェクト」について視察を行いました。</p>

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

守口市立図書館は、平成5年に設置され生涯学習活動の場として機能してきた守口市生涯学習情報センターが、開館後25年が経過し、多様化する市民ニーズへの対応が課題となってきたことから、図書館法に基づく図書館として再生された施設である。それまで同センターや市内各所のコミュニティセンターなどに分散していた図書室を統合し、市内初の図書館として図書館機能を柱としながら滞在型の図書館や旧プラネタリウムを集会や演奏のできるホールに改装するなど生涯学習施設機能を併せ持った施設に再生した。

もともとの明るく開放的なスペースを生かし、椅子の種類や配置を画一化せず利用者それぞれのスタイルで読書や学習ができるよう配慮された空間は再生利用した施設とは思えない完成度で、多くの市民が繰り返し利用しており、好評である様子がよくわかった。

既存の建築物をどのように生かすかについては、地域のランドマークともなる外観と図書館と生涯学習施設を併せ持った守口市立図書館の在り方は、市役所本庁舎移転を目指している鎌倉市において現本庁舎をどのように利用するのかを検討するにあたり、参考になる施設であると感じた。また鎌倉生涯学習センターと鎌倉中央図書館の今後の在り方にも共通する課題解決の参考ともなる施設の在り方であるとの感想をもった。

2 いじめ防止の取組について（大阪府吹田市）

すいた GRE・EN スクールプロジェクトは文科省の「令和3年度いじめ対策・不登校支援等推進事業」の委託により吹田市が公益社団法人子どもの発達科学研究所と共同で開発したプロジェクトで、いじめ加害者児童、被害者支援を目的としているが、いじめ予防、児童生徒の友だちづくりなどに役立つ内容となっているとのこと。小学校中学校とも学年ごとの発達段階に応じたプログラムを用意しており、市をあげて関連予算を確保するなど、いじめ防止対策に取り組んでいる様子が伺えた。

いじめ予防リーダーが各校1名配置され、いじめ事例を共有し協議する体制が整い、成果として教師のアンテナが高くなったといわれるようになり、いじめ防止の風土が形成されているという。

吹田市は鎌倉市と同じような面積の自治体でありながら人口が38万人で人口密度の高い地域であり、小学校36校、中学校18校が設置され、児童生徒数が3万人で、人の交流が密であることもあり、人間関係形成の難しさがあると思われるが、プロジェクトの9事業の推進の中で作られた動画コンテンツ「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」を開発し、現場で活用するなど具体的な取組が成果として挙げられる。取組の継続と保護者を含めた理解をどう広げていくのか、児童・生徒個人にどうかかわるのかが今後の課題であるという点は鎌倉市も同様の課題を抱えている。

納所輝次
委員長
所感

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

今回 10 月 16 日に伺ったのは 3 年ほど前に完成した守口市立図書館。元々は 30 年ほどが経過している既存建築物をリノベーションして図書館に。

ダンス教室やコンサートが開催出来るような防音効果に優れたホールに加えて、集会室機能、そして図書館機能と備えている。小さいお子さんから年配の方々までそれぞれ思いのままに時間を過ごす。「音を立てるような食事はしないように」など最低限のマナー（ルール）があるとのことだが、それ以外は大きな制限もない。楽器の演奏など音を出すなら防音効果の優れた部屋を利用すれば良いので、外で勉強したり読書したりしている人には影響しないという事である。共生社会・多世代交流を考えたとき、このような「環境」さえあれば「混ざる」ことが出来ることを再認識した。鎌倉市においては似たような機能を想定している市庁舎現在地利活用の在り方を検討している中で、特にこの「防音機能」に優れた部屋が市内全般的に不足していると個人的には感じている。そういう意味で今回の訪問施設は一つの大きな示唆に富む施設であると感じた。

参考 守口市 人口 約 141,000 人 世帯数 約 74,000 世帯 面積 12.7km²
鎌倉市 人口 約 171,000 人 世帯数 約 77,000 世帯 面積 39.6km²
→ 守口市の人口密度は鎌倉市の約 2.5 倍

施設自体は 3 年ほど前にプロポーザルで東京のデザイナーが約 6 億円の費用をかけてリノベーションしたとのこと。

2 いじめ防止の取組について（大阪府吹田市）

翌 10 月 17 日に伺ったのは吹田市役所。吹田市では平成 29 年にいじめの重大事態案件があり、それを受けて学校と教育委員会、市長を始めとする執行部と三位一体となっていじめ対策に専念してこられた先進自治体。

いじめに対する「未然防止」そして「早期発見・早期対応」を確立すべく「人材育成」と「人的配置」に尽力されてきたとのこと。具体的には「すいた GRE・EN スクールプロジェクト」(good relation enjoyment) を前面に押し出し、SSW(school social worker)、SC(school counselor)、SL(school lawyer)などの専門職配置をはじめそれらを拡充することを取組の一つとしている。他の取組と併せて多面的、重層的にいじめ防止を図っているとのことであった。鎌倉市においても不登校特例校が開設予定である。各自治体だけでなく隣接自治体や先進自治体と連携を強化し、お子さんを取り巻くネットワークが強固なものになれば更に「未然防止」や「早期発見・防止」に寄与するのかもしれないと感じた。

参考 吹田市 人口 約 381,000 人 世帯数 約 180,000 世帯 面積 36.1km²
鎌倉市 人口 約 171,000 人 世帯数 約 77,000 世帯 面積 39.6km²

面積は本市とほぼ同じ。前日視察に伺った守口市と人口密度はほぼ同じ（1 km²あたり約 11,000 人）。パナスタ（ガンバ大阪のホームスタジアム）を始めとする観光施設があり、また大阪市のベッドタウン的要素もあり、本市においても今後参考になるような要素がある印象を受けた。

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

既存建築を市立図書館に改築したケースを視察した。場所は守口市の北部中央エリアに位置し、大阪モノレールや地下鉄の駅からは徒歩5分程度で公共交通のアクセスは良い。外観が非常に洒落ている建物でわかりやすい。裏手には公園が併設されているので、子どもたちがシームレスに集まり、利用できる環境となっていた。

建物はもともと生涯学習センターであり、上層階にはプラネタリウムなどが設置されていたとのこと。守口市にはこれまで公立図書館がなく、市民の要望から本建築を改修し、生涯学習センターと図書館の両方が入る建物になった。現在はプラネタリウム施設は撤去し、大ホールとして貸し出ししている。

運営は3社のJVが指定管理者となっており、各社既に地域での図書館運営に携わっていた3社でJVが結成された。本施設は元から指定管理者運営となっていたためそのまま移行された。

公共施設の指定管理者運営については本市においては議論の余地があるが、守口市(大阪)では当たり前の文化のように醸成されていると感じた。ホール等の施設利用は市民負担があり、こどもは半額の措置となっているが、安いとはいえ学生は無料だと利用しやすいだろうと感じた。運営は「適切な利用者負担」で行われているということだった。運営費から絵本作家を呼んで、イベント等が開催されている。

守口市は縦にも長く、南部のエリアにお住まいの方は公共交通のアクセスがなく、利用が難しいという状況で、各地センターの図書スペースの利用となっているとのことだった。一階ロビーはコーヒーを飲みながら勉強や談話のできるスペースがあり、集える場所となっている。こういったスペースは鎌倉市にも必要性を感じている。

藤本あさこ
委員所感

2 いじめ防止の取組について（大阪府吹田市）

「こどもの発達調査研究所」の作るいじめ予防プログラムを導入したケースをヒアリングした。吹田市では重大ないじめの案件が発生したため、もうこういうことを起こさないために、本事業に取り組んだという経緯がある。鎌倉市も本年度、いじめ重大事態認定の対応遅れが発覚したため、その姿勢には非常に学ぶべきことがある。

いじめワークブックやeラーニング資料を利用して、いじめはいけないことである、また見かけた時の行動を含めて教えているとのこと。いじめやハラスメントには、当事者だけでなく周囲の働きかけが重要であるため、バイスタンダーの育成として機能していると感じた。

とはいえ何より重要なのは「大人の」知識、行動、態度なわけで、本来的であればこれは教職員側に徹底されるべき概念であると考え。質問では「教職員もこれを徹底しているか」というものがあつた。いじめは教師から始まるケースも往々にしてあるため、児童生徒がそれを正すことができるのか、(パワーバランスの背景)という課題もある。

いじめは、こどもに「だめだ」と教えるものではなく、「いじめをしない」大人の背中を見せることが第一である。「子どもに教える」のではなくまずは大人が「やってみせる」教育を心がけたい、と感じた。

藤本あさこ
委員所感
(続き)

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

前川綾子
委員所感

守口市は、平成 25 年から生涯学習情報センターとして活用していた 4 階建ての建物を 3 年前に守口市立図書館としてリノベーションして、指定管理で運営がおこなわれている。これまでは、市内のコミュニティーセンター、文化センター、学校や関係機関と連携し図書振興や文化の発展に努めてきたということではあるが、新たに市立図書館として設置されたことに対する市民の期待は大変高いと思われる。この図書館が設置されるにあたり、図書サービス機能の充実はもとより、市民の活動拠点として、乳幼児から高齢者まで多世代の利用を促進し、活動の多様化・活性化を図り、「集い・学び・交流する」施設の実現を目指し、さらに国が示した「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日施行）」も踏まえて運営方針を策定されており、その実現のために運営が進んでいることを視察することができた。

コロナ禍での設置であったので、コロナ収束後となり、これから益々活用が活発になることが期待され、またそのため画期的なイベントなども要求されると思う。運営状況など説明を伺ったあと、実際に館内を見学した時間は、平日の 3 時頃であったが、多くの多世代の市民が思い思いにゆったりと利用している姿が見られ、特に自習室はほぼ満席状態であることには驚いた。自動貸出など図書サービスの充実はもとより、各フロアに点在して自由に利用者が座る椅子も形や大きさなど様々な物が配置され、またカフェもあるなど、こうした利用環境への工夫が多くの世代に愛され、利用が多い図書館になる要素であると強く感じた。

2 いじめ防止の取組について（大阪府吹田市）

前川綾子
委員所感
（続き）

平成 29 年に「いじめの重大事態」と認知されたことにより、進められている「すいた GRE・EN スクールプロジェクト」に至るまでの経緯、概要、そして「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」について、吹田市役所内での会議室で、教育委員会の教育センター・学校教育室の各主事から説明を受けた。「いじめ防止」の取組である。いじめ予防推進のための事業を教職員対象に研修を行い、いじめの調査、または、学習用端末を活用していじめ防止相談ツール「マモレポ」の構築、学校問題解決支援員や小学一年生を対象に生活や学習を支援するスターターの配置、SSW の配置、さらにはスクールロイヤーとの連携強化、第三者調査委員会の常設化その取組状況の検証や意見の提示、そして小学校 1 年生・小学校 2～3 年生・4～6 年生・中学生と 4 パターンに分けて作成された Triple-change プログラムといういじめ予防推進のための冊子を活用し、授業を年に 3 時間程度行っている、ということである。

あるいは、いじめに対する理解を促す動画教材を作成して、ともだちづくり・かかわりづくりについて考える時間を様々な機会を利用して行っているということである。それぞれに成果が求められるものであるが、吹田市の場合は、小学校 36 校、中学校 18 校と公立だけでも非常に学校数も多く、先生や保護者の各取組に対する理解や実践は、特に困難であると感じた。いじめに苦しむ子ども達を救ってあげたいという気持ちが高まるほどもどかしい思いが残る。

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

「生涯学習との複合施設としての取組」と「集い・学び・交流する」地域コミュニティの場としての守口図書館についての話を伺いました。

これまで公立図書館が設置されていなかった守口市に 2020 年に市内初の図書館がバブル期の複合文化施設を改修してオープンしました。図書館機能をメインとしながら生涯学習施設の機能も併せ持ち、一日中過ごせるような滞在型図書館としてリニューアルし、来館者数や貸出冊数は年々伸びているそうです。1階のホールは飲食可能な交流スペースがあり、カフェ販売コーナーを設け、市民がくつろげる交流の場となっており、地上5階地下1階建の建物のなかに閲覧席や自習室や会議室、防音スタジオなどさまざまな居心地の良い空間作りが行われており、赤ちゃんからお年寄りまで多世代が集える場となっていました。特に図書館ならではの事業として、絵本原画展、ライブやイベントは多岐に渡りワクワクする企画が充実していることや、本の出会いを演出するアイデアも取り入れており、特に本を読む機会の減る青少年のコーナーは工夫がされて興味深く、その効果もあるのか青少年の利用者がとても多いと感じました。

図書館の指定者管理については賛否もあり、期限があり継続性がない中で労働力の確保や、サービスの向上を図れるのかと言った課題を改めて問い直し、どんな指定管理者に来てほしいかといった市民との協働も必要であると感じましたが全体的には鎌倉市にも取り入れてほしいと感じる素晴らしい図書館でした。

井上三華子
委員所感

2 いじめ防止の取組について (大阪府吹田市)

吹田市では H29 年のいじめ重大事態が発生したことから令和元年に第三者調査委員会の提言を受け、学校・教育委員会・市長部局が連携して「すいた GRE・EN スクールプロジェクト」を実施していることから教育委員会の方々にお話を伺いました。早期発見・早期対応・未然防止に向けた体制の強化のため令和 2 年度はいじめ予防推進事業としていじめ予防授業・科学的根拠に基づく調査・教員研修を行い、3 年度は文科省委託事業としていじめに対する理解を促す動画教材の作成を行なっているとのことでした。

井上三華子
委員所感
(続 き)

授業で使っているワークブックの内容や、「相手の子が傷つけばいじめである」といういじめの定義に違和感や疑問を感じずにはいられませんでした。このワークブックを元にするのであれば誰でも自分の意見を言えば他人を傷つける可能性があり子どもは自由な意見や発想を狭める可能性があるとして危機感を感じました。子どもは成長過程の中で相手とぶつかる経験を通して、自分の発言を反省したり相手の気持ちを考えたりするということは必ず通らなければいけない道だと思います。子どものシンキングエラーはいわば当然なこととそこに関わる大人のシンキングエラーについてまずは大人がもっと学ばなければならないと思います。相手が嫌がることをするのはいじめという横暴な考え方は返って子どもを傷つける可能性があり、まずは大人の信頼関係の構築、学校や保護者の相互の信頼関係の中に子どもたち一人ひとりの安心できる環境があり、そこの先により良い教育や支援があるのだと思い、変えていくべきです。

1 既存建築を資源と捉えた複合施設の在り方について（大阪府守口市）

守口市：生涯学習と複合施設としての取組。
守口市は図書館法図書館がなかった。他の施設に図書室はある。
3年前、既存建物を改築、リノベーション。
集い、学び、交流する滞在型図書館を目指している。
地域コミュニティの場としての図書館。生涯学習施設時代から指定管理、図書館運営も指定管理となった。
もともと2階は図書室があり、1階も図書館機能に。
3、4階は生涯学習機能。1時間単位の貸し出し、入れ替えの時間が忙しい。
3階は学習スペース、防音スタジオ、会議室等。
4階は元プラネタリウムを生かし、円形ホールや多目的ホール。
市立図書館20万冊、その他施設の図書室も合わせ、35万冊。
1階共有スペースで月1回のコンサート、図書館利用者に理解を得て実施。
地域人材に光を当てた事業の実施。交流事業を定期的開催。
図書館ならではの事業。絵本作家、原画展、絵本ライブ等。
カフェコーナー飲食ができる交流スペース。（1F 図書館）
貸出、返却、予約貸出サービスの無人化、スタッフはカンファレンス等対応。
鎌倉の市役所跡地構想の図書館もこんなイメージか。
鎌倉5か所の図書館は図書館法図書館。鎌倉市の公共施設再編計画では拠点校に図書館を入れる計画。図書室になってしまうのではないかと不安に思う。

吉岡和江
委員所感

2 いじめ防止の取組について（大阪府吹田市）

吹田市：H29年のいじめ重大事態から対策を全市あげて取り組んできた。
いじめを認知する教職員のスキルが上がってきたのか？
いじめ認定数は多くなっているとの事、減ってはいない。
日本社会の中で、成績主義や効率化が重視されている中でいじめは増えているのではないか。
人との違いを認め、人として尊重し、支えあえる社会をどうつくるのか。
個性を大切にしていける事、お互い認める社会にならないといけない。
教職員、子ども集団のなかでの日常的取組が大事。
また1人、1人が勇気を持って発言する風土をつくっていく。
またいじめという定義も難しい。
あだ名で呼ぶことがいじめなのか疑問？
先生の一言も難しい。保育士として勤務していた時、好きな女の子に砂をかけていた2歳児。行為を注意するだけではだめで「好きな女の嫌がっているよね。どうしたらいいのかな」と話しかけ、わかってもらえる言葉かけを行った。
大人の働きかけが大事ではないか。
担当者も悩みつつ取り組んでいることが感じられた。
実践してきて7年、見直しも必要ではないかとの声。
悩みながら現場で日々取り組んでいることが感じられた。